

闇市

と

都市

もっと
楽しむ

30冊

Black Markets and
the Reimagining
of Tokyo

TAKE FREE

選書・文

石樽督和

高島屋史料館 TOKYO

(関西学院大学建築学部准教授)

01

『東京のヤミ市』

松平 誠 (著)

講談社, 2019

東京の闇市、特に山手線沿線の闇市を総合的に語った唯一無二の本。暗いイメージだった闇市を「ヤミ市」という表記で、逞しい再生の都市空間として描き直した著作。東京のヤミ市を知りたかったら、まずこれを読むと良い。

02

『都市の戦後 増補新装版』

雑踏のなかの都市計画と建築』

初田香成 (著)

東京大学出版会, 2024

戦後都市を建築学から初めて描いた研究書。その一部として闇市を対象としている。松平誠が戦後復興期に限って捉えていた闇市を、戦前の小売市場との関係から高度成長期の再開発過程まで、時間の幅を広げて位置付け直した。

03

『戦後東京と闇市』

新宿・池袋・渋谷の形成過程と都市組織』

石榑督和 (著)

鹿島出版会, 2016

「闇市と都市」展の後半の展示である新宿の闇市について、展示よりもさらに詳しく記し

た著作。新宿だけでなく、高度成長期に副都心と呼ばれるようになる池袋と渋谷という東京の代表的な鉄道ターミナル駅周辺の都市史を、闇市の形成と整理から明らかにしている。

04

『新版 日本のまちで屋台が踊る』

中村睦美, 今村謙人, 又吉重太 (編)

今村謙人, モリテツヤ, 鈴木有美,

神条昭太郎, 孫 大輔, 小川さやか,

南後由和, 鞍田 崇, 石榑督和, 栗原康,

阿部航太, 笹尾和宏 (著)

学芸出版社, 2025

現在の日本の屋台を個人のインタビューから描き出す本。どの屋台実践者も面白い。あわせて文化人類学、社会学、哲学、都市史、政治学など分野を超えた専門家が屋台を考える。私は闇市から現代の屋台を考えている。

05

『空想から計画へ』

近代都市に埋もれた夢の発掘』

中川 理,

空想から計画へ編集委員会 (編)

思文閣出版, 2021

この本で私が書いた章には「闇市と都市」展で展示している闇市の組織図が掲載されている。その章では、闇市を更生させようと

奔走した貴族院議員の松本学の奮闘を描いている。

06

『松本学日記 昭和十四年～二十二年』
尚友倶楽部, 原口大輔, 西山直志 (編)
芙蓉書房出版, 2021

『空想から計画へ』で私が書いた章の主人公、貴族院議員松本学の戦前から占領復興期にかけての日記。戦前から警保局長としてテキヤの親分たちと関係があった。闇市の更生のために奮闘した戦後に彼らとどのようなやり取りをしたかも記録されている。

07

『占領下の日本 カラーフィルム写真集』
衣川太一 (編著)
草思社, 2025

衣川太一がコレクションした、占領期に米軍関係者が撮影した貴重なカラーフィルム写真100カットを収録した画期的な本。闇市の写真も掲載され、私も闇市に関するコラム「道端から再生する都市」を書いている。

08

『〈ヤミ市〉文化論』
中村秀之, 井川充雄, 石川 巧 (編)
ひつじ書房, 2017

戦後復興期の文化と闇市についての論考をまとめた本。私は、民間資本を導入して

戦災を受けた大規模の国鉄駅舎を改築する方法である民衆駅について書いている。「闇市と都市」展の通り、戦後の新宿駅東口では闇市が整理されると民衆駅が建設された。

09

『津波のあいだ、生きられた村』
饗庭 伸, 青井哲人, 池田浩敬, 石樽督和,
岡村健太郎, 木村周平, 辻本侑生 (著)
山岸 剛 (写真)
鹿島出版会, 2019

私は近現代日本の災害復興をメインテーマに研究を続けている。これは東日本大震災後に三陸で行った共同研究をまとめた本。三陸沿岸集落は近代以降2011年を含めて4度大きな津波被害にあい、再生してきた。大船渡市の綾里地区を対象に繰り返し襲来した津波の「あいだ」に人々がどのように生きてき、地域をつくってきたかを描いている。

10

『台湾人の歌舞伎町
新宿、もうひとつの戦後史』
稲葉佳子, 青池憲司 (著)
筑摩書房, 2024

日本で最も知られた歓楽街、歌舞伎町は多くの台湾人によって形成されたまちと言っても過言ではない。それを丹念な台湾人への聞き取り調査から描き出した著作。歌舞

伎町の黎明期を支えた台湾人たちは、戦後復興期、新宿西口の安田組マーケットで店を出した人々だった。『戦後東京と闇市』『新宿「性なる街」の歴史地理』とともに読むと新宿が違って見えてくるに違いない！

11

『新宿「性なる街」の歴史地理』

三橋順子（著）

朝日新聞出版，2018

さまざまな性のあり方が共存するまち、新宿。このまちにかつてあった買売春地帯「性なる場」の痕跡を、古地図と古写真から読み解き、盛り場新宿の歴史を描き出している。『戦後東京と闇市』『台湾人の歌舞伎町』とともに読むと新宿が違って見えてくるに違いない！

12

『新宿をつくった男』

戦後闇市の王・尾津喜之助と昭和裏面史』

フリート横田（著）

毎日新聞出版，2024

東京で最初の組織的な闇市「新宿マーケット」をつくり、東京露店商同業組合理事長として東京の闇市、露店商を牽引した尾津喜之助の評伝。とくに尾津の晩年を聞き取り調査から描いた第6章が面白い。

13

『東京戦後地図 ヤミ市跡を歩く』

藤木TDC（著）

実業之日本社，2016

東京都区部を中心に東京の郊外、横浜、川崎、蕨、船橋を含む豊富なまちの歴史を闇市からたどる。火災保険特殊地図と古写真でそれぞれのまちの闇市時代の様子がわかる。

14

『新宿・渋谷・原宿』

盛り場の歴史散歩地図』

赤岩州五（著）

草思社，2018

時代ごとの古地図を新宿・渋谷・原宿を対象に収集し、歴史とともに見せる本。各年代のまちの移り変わりを地図から読むことができる。とくに新宿・渋谷については火災保険特殊地図を使った闇市の解説を読むことができる。

15

『東京の創発的アーバニズム：』

横丁・雑居ビル・高架下建築・

暗渠ストリート・低層密集地域』

ホルヘ・アルマザン+Studiolab（著）

学芸出版社，2022

東京の〈創発的アーバニズム〉を象徴する横丁、雑居ビル、高架下建築、暗渠ストリート

ト、低層密集地域を立体的な図面で描き、東京の都市空間の特徴をビジュアルに示した本。これまで図面としては見る事ができなかったような場所が図化されている。

16

『引揚者の戦後』

島村恭則（編）

新曜社, 2013

引揚者の戦後をテーマに国内にできた場所、引き揚げられなかった人々と場所、引き揚げてからの暮らし等に迫った論集。とくに島村恭則による「引揚者が生みだした社会空間と文化」は全国の引揚者マーケットを現地でのフィールドワークから描いていて面白い。

17

『吉祥寺「ハモニカ横丁」物語』

井上健一郎（著）

国書刊行会, 2015

学生時代中央線沿線に住み、吉祥寺駅前のハモニカ横丁へ通った著者は卒業論文でハモニカ横丁をテーマにした。それを冊子にまとめ、長らくインターネットで販売し、ホームページ「ヤミ市横丁研究所」を運営した。2010年代の闇市ブームを支えた著者が満を持してまとめた書籍。

18

『神戸 闇市からの復興 POD版

占領下にせめぎあう都市空間』

村上しほり（著）

慶応義塾大学出版会, 2025

神戸の占領復興期にできた闇市と、進駐軍による占領・接収が、どのように都市空間を形成していったのか、あるいはその形成に影響を与えたのかを明らかにした著作。東京以外の闇市を描いた代表的な研究書。著者の博士論文をもとにしている。

19

『名古屋駅西タイムトリップ』

林 浩一郎（編著）

風媒社, 2025

名古屋駅西側に戦後復興期に形成された闇市を起源とするマーケットでできたまち「駅裏」。そのまちがどのようなまちで、新幹線敷設を背景にした都市計画によってどのように変えられていったのかを振り返りつつ、現在進むリニア新幹線開発と重ね、今の名古屋駅西のまちを考える運動性のある刺激的な著作。

20

『建物疎開と都市防空：

「非戦災都市」京都の戦中・戦後』

川口朋子（著）

京都大学学術出版会, 2014

非戦災都市京都を主な対象として、戦中期に日本中の都市で行われた建物疎開について包括的に議論した最初の研究書。東京の建物疎開についても実働した組織の構造、実施の方法などを明らかにしている。

21

『東京復興写真集 1945～46
文化社がみた焼跡からの再起』
東京大空襲・戦災資料センター、
山辺昌彦、井上祐子（監修）
勉誠出版, 2016

敗戦直後から活動を開始した出版社「文化社」の1945～46年の写真を840点収録した写真集。東京の戦災復興初期の都市風景を強いリアリティーを持って提示している。「闇市と都市」展で展示した菊池俊吉の写真も掲載されている。

22

『占領期カラー写真を読む
オキュパイド・ジャパンの色』
佐藤洋一、衣川太一（著）
岩波書店, 2023

占領期にアメリカ人によって撮影された写真をアメリカで収集し、研究してきた佐藤洋一と、占領期に外国人が撮影したカラー写真を対象にフィルムをコレクションし、スキャンと

修復を行うことで史料として公開を進めてきた衣川太一による新書。占領期の日本を写した写真から当時の都市空間・社会を考える上で必読の書。

23

『都市のドラマトゥルギー
東京・盛り場の社会史』
吉見俊哉（著）
河出書房新社, 2008

20世紀の東京の盛り場を上演論から描いた古典。戦前の盛り場としての上野・浅草から戦後の盛り場としての新宿・渋谷への展開で闇市が重要な意味を持っていたことを先行研究を使って描いている。

24

『闇市：BLACK MARKET』
マイク・モラスキー（編）
皓星社, 2015

闇市とその時代をテーマとしながら、これまでそれほど注目されてこなかった短編小説をまとめたアンソロジー。編者であるマイク・モラスキーによる闇市の解説も必見。

25

『〈焼跡〉の戦後空間論』
逆井聡人（著）
青弓社, 2018

焼け跡の都市空間や闇市を舞台に描かれた小説作品を読み解いた著者の博士論文をもとにした本。戦後日本の枠組みで考えられてきたことを、冷戦期東アジアという枠組みにひらいて捉えなおした優れた文芸評論。

26

『〈格差〉と〈階級〉の戦後史』

橋本健二（著）

河出書房新社, 2020

2009年10月に刊行された『「格差」の戦後史』を10年を経て大幅に増補改訂された新書。敗戦と闇市から始まる戦後日本の格差と階級を知る上での必読書。

27

『日本流通史 小売業の近現代』

満菌 勇（著）

有斐閣, 2021

明治時代以降の小売業の発展と変容を描いた通史。流通が「生産と消費を架橋する」役割を果たしてきた過程を描き出している。そのなかで「闇市と都市」展が対象とした戦時・敗戦直後についてもわかりやすく解説されている。

28

『「不法」なる空間にいきる

占拠と立ち退きをめぐる戦後都市史』

本岡拓哉（著）

大月書店, 2019

敗戦後の住宅不足のなかで都市のなかに生まれたバラック街。都市開発のなかで「不法」とされ消滅へと至りながらも、そのなかで暮らす人々の生きる戦術を描き出した研究書。闇市同様、戦後都市に必然的に生まれた空間だった。

29

『広島復興の戦後史

廃墟からの「声」と都市』

西井麻里奈（著）

人文書院, 2020

広島の戦災復興を、区画整理事務所へ提出された計1500通余の陳情書を読み解き、これまでとは異なる視点から描き出した画期的な研究書。戦災復興を都市計画や都市空間の歴史ではなく、陳情書に記された人々の人生の語りから描いている。

30

『首都圏形成の戦後史 計画・開発と自治体』

松本洋幸, 大西比呂志（編著）

日本経済評論社, 2023

「首都圏」という巨大な空間の形成を、首都圏計画と開発、地域社会の多様な政治から迫った戦後史。首都圏の戦後史を考える上で重要な書籍。

石樽督和 (いしぐれ・まさかず)

関西学院大学建築学部准教授／中央研究院臺灣史研究所訪問學人

専門は建築歴史・意匠。1986年岐阜市生まれ。

単著に『戦後東京と闇市 新宿・池袋・渋谷の形成過程と都市組織』（鹿島出版会、2016/2020年日本建築学会著作賞）、共著に『津波のあいだ、生きられた村』（鹿島出版会、2019/2021年日本建築学会著作賞）、『日本のまちで屋台が踊る』（屋台本出版、2023）ほか。

明治大学理工学部建築学科卒業。博士（工学）。

展示情報

闇市と都市

— Black Markets and the Reimagining of Tokyo

2025年9月13日(土)→2026年2月23日(月・祝)

午前10時30分～午後7時30分 入場無料

高島屋史料館TOKYO 4階展示室

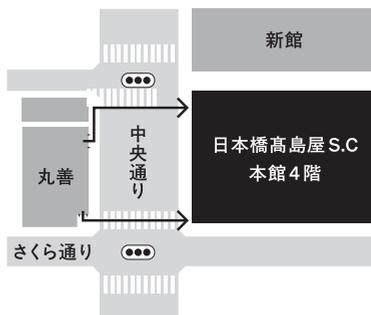
東京都中央区日本橋2-4-1 日本橋高島屋S.C.本館

火曜：祝日の場合は開館して翌日休館、

年末年始：12月31日(水)～1月2日(金)



丸善日本橋店から 高島屋史料館TOKYOへのアクセス



中央通りを挟んで向かいの建物です。

制作：高島屋史料館TOKYO